

製品名: MLH1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87475**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:50-1:200,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:85 kDa; Observed MW:85 kDa

抗原情報

遺伝子名	MLH1
別名	FCC2; COCA2; HNPCC; hMLH1; HNPCC2
遺伝子 ID	4292
SwissProt ID	P40692
免疫原	ヒト MLH1 の合成ペプチド

背景

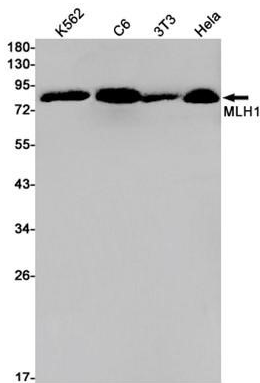
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ミスマッチ修復エンドヌクレアーゼ PMS2 とヘテロ二量体を形成し、DNA ミスマッ

チ修復系の一部である MutL α を形成する。MutL α が MutS β およびいくつかの補助タンパク質と結合すると、MutL α の PMS2 サブユニットが DNA ミスマッチ近傍に一本鎖切断を誘導し、エキソヌクレアーゼによる分解の入り口となる。この遺伝子によってコードされるタンパク質は DNA 損傷シグナル伝達にも関与しており、DNA ミスマッチ修復タンパク質 MLH3 とヘテロ二量体を形成し、減数分裂に関与する MutL γ を形成する。この遺伝子は、遺伝性非ポリポーシス大腸癌（HNPCC）において高頻度に変異する遺伝子座として同定された。[RefSeq 提供、2017年8月]

研究分野

-

画像データ



MLH1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して、K562、C6、3T3、HeLa 細胞からの抽出物をウェスタン ブロット分析しました。